

10班：「スモールスタートー小さな成功を！」

○藤原将人（立命館大学）、藤原宏司（山形大学）、岩谷吉高（三重大学）、大家隆弘（徳島大学）、出口幸治（大分大学）、福岡恵梨菜（宮崎大学）

1. 議論結果の概要

(1) メンバーの属性と「個別課題」

①メンバーの属性

国立大学：IR・EM室教員 学長補佐・室長1人、教授1人（運営協力者）

総務・企画系職員 課長補佐1人、係長1人、係員1人

私立大学：学務・教務系職員 課長補佐1人（ファシリテーター）

②個別課題

各メンバーから出された主な個別課題（現状と問題点）は以下のとおりである。

- ・学長、大学執行部の大学運営を補佐する上で、いかに効率よくIR体制（IR情報を基にした大学運営支援）を構築するか。
- ・大学執行部からの要求が具体的でない場合もある。（例：大学ランキングをあげろ！）
- ・IRに興味を持ってもらえない。（何から手をつければ良いか）
- ・中期目標・計画に設定されていない数値目標を掲げる必要があるか。
- ・執行部からIR室への調査が続かない。「IR室ならではの調査、分析」を示すことが難しい。
- ・学内の予算の都合上、統合データベースを構築することが難しい中で、IR室の兼務者を介して学内のデータを短時間で入手することが難しく、結果として調査依頼元への資料提供に時間を要している。
- ・評価担当者とIR担当者との住み分け、連携の方策が整理されていない。

(2) ポスター作成の作業の流れ

メンバー一人ひとりから、事前に用意した「個別課題」を中心に説明し、運営協力者（藤原宏）やファシリテーター（藤原将）が補足説明を行いながら、それぞれの課題の中から共通する課題を詰めていく過程をとった。その際、個々の課題をレストランや料理の場面に例えてみて、検討を行った。

ただ結果として、各メンバーから出された課題はさまざまであり、共通する課題がそれほど多くはなかったことから、まず期待する成果（アウトカム）として、「大学の意思決定に使える分析」を設定した。

そのうえで、基データから期待する成果に至るまでの、データの収集や加工、IRによる分析といった各段階〔緑色の付箋〕に応じて、それぞれの課題〔ピンク色の付箋〕をどのように解決するのが望ましいかを検討・整理を行った。解決策として提案された各大学での方法を〔水色の付箋〕と、その解決策がなぜ有効なのかの理由、または補足説明を〔黄色の付箋〕で示すことで整理した。

加えて、レストランや料理の場面に例えることができそうなものについて、説明〔オレンジの付箋〕を添えた。

以上のような課題の検討・整理を踏まえたうえで、「大学の意思決定に使える分析」という大きなことを目指していくなかでも、「スモールスタート」や「小さな成功を」地道に積み重ねていくことが大事だろうということで、ポスターのタイトルを「スモールスタートー小さな成功を！」に定めた。

（3）ポスターの説明

上記（2）の手順により作成したポスターは、当日行われた投票の結果、プレゼンテーションを行うことになったので、発表内容を以下のとおり掲載する。

10班です。大分大学の出口と申します。よろしくお願ひします。10班は国立大学が中心のチームで、いろいろな課題が出たのですが、共通する課題があまりなかったため、IRの業務を中心に、データ収集と、データ加工、IR分析に分けて、そこから期待する成果として、大学の意思決定に使える分析を目指し、それぞれ課題をどういうふうに解決していくか考えました。ピンクの札が課題で、青い札が解決策、黄色い札が究極の解決策として扱っています。それからオレンジの札を貼ってあるのが、レストランに例えて分かりやすくしたつもりです。

まず課題では、データ収集が不完全、事務への理解が得られない、IRに興味を持ってもらえないというのが出てきました。理解が得られない部署はスモールスタートで、取りあえず、あるデータで結果を出す。それから文字だけではなくて、なるべく分かりやすい図とか表を使い、見やすい資料を作って見てもらうことでそれぞれ課題を解決できるのではないかという意見が出ました。究極の解決策として、自分の所だけ結果が出てなければ、多分、その部署からもデータが出てくるだろうと考えました。また、データの提供元に何か還元を行うことで、きっと理解が得られ、データを出してくれるようになるのではないか、小さな成功を目指すことを心がけていけばいいのではないかという意見がありました。

それから、教員業績のデータベースなどの入力率が悪いという課題がありました。これについても、データを使って業績評価を行ったり、学部ごとにインセンティブを設けるなどすれば、きっとデータが入ってくるのではないか、まずは小さな成功を目指すという意見が出ました。

データの加工については、フォーマットがふぞろいという課題があり、データの共有化を進めてはどうかという意見もありました。究極の解決策としては、見本を示して自分たちも使える状態にしておけば、きっと加工もしやすくなるのではないかと考えました。

IRの分析については、どこで分析をするか、何でIRがやるか、そういう課題が出ましたが、大学ごとに、うちの大学でIRはこういうことをやるということを明確にするという意見が出ました。究極の解決策として、分野が限定されているものは、それぞれの部署、学部とか、入試課に任せたいほうがきっと、うまくいくのではないかという意見がございました。

期待する成果のところ、要求が具体的でないことが結構あるという意見があり、大学ランキングを上げるとか、自大学の強みの分野を明らかにするような分析をしるとか言われるということですが、強みを明らかにすることについては、学長なり役員のかたがたとコミュニケーションを図って、質問を具体的にしてもらうことで、解決できるのではないかという意見にまとまりま

した。

このように、IR 分析と期待する成果である大学の意思決定に使える分析との関係が薄かったこともあり、テーマをスモールスタート、小さな成功をコツコツと積み重ねていくということにしました。

2. グループ討論を通して感じた評価や IR を改善に活かすためのコツ、感想等

- IR に理解を持ってもらおう、また IR を大学運営支援に活かすためには、データが全て揃うのを待つのではなく、とりあえずできるところからコツコツと進めてアウトプットを出していく（スモールスタート）ことが大切である。
- これから学内に IR を浸透させるためには、データの提供元等に何らかの還元を行うことを繰り返し行い、小さな成功を積み上げていくことが大事だと感じました。
- (担当者集会後に大学に戻ってからも感じたことですが) 学内で IR の定義をしっかりとっておかなければならないと感じました。特に、担当限りで分析できるデータなどは担当に任せの方が、目的にそった分析ができ、複数の部署に跨るような分析が必要な場合に積極的に関わるように学内で取り決めようと思っています。
- 執行部のオーダーを待っていてもなかなか来ない中、どのようなオーダーを希望しているのかを IR 室側から聞きに行く機会を増やすことが、IR 業務を充実させる上での基本になるのではないかと感じました。その中で、IR 業務に興味を持っている方とスモールスタートし、学内に地道に一品料理でも出し続けることで、周囲の関係者にも徐々に影響を与えていけるのではないかと感じています。
- 「IR 室員の中でも IR 室って何をするの？」の意識がバラバラであると感じたので、早速直近の IR 室会議で「これまで行ってきたことの整理」と「今後の IR 室の方針、実施する業務案」について協議し、室員間の認識を共有することにしました。

10班

スモールスタートー小さな成功を！

